

# 教育委員会に関するアンケート調査 【教員版】

2010年1月

日本の教育を考える10人委員会



## アンケートの概要

### 1. 趣 旨：

今日、教育現場の状況は地域や家庭環境等により様々な様相を呈しており、全国一律の教育政策だけではなく地域の実情に合わせたきめ細やかな施策を実施していくことが求められています。今後、中央の政策を推進しつつも、地域ごとの実情に即しながらよりよい教育を実施していくためには、現場の状況を把握している市町村教育委員会が実効性のある取組を図っていくことが必要となります。

そこで、日本の教育を考える 10 人委員会（委員長 佐和隆光：立命館大学政策科学研究科教授 京都大学経済研究所特任教授）では、全国公立小中学校教員を対象とし、現状教育委員会が行っている施策の実態や今後重要と思われる施策内容等についてアンケート調査を実施いたしました。

### 2. 実施期間：

2009 年 9 月 3 日～9 月 6 日

### 3. 実施対象：

全国公立小中学校の教員

### 4. 調査方法：

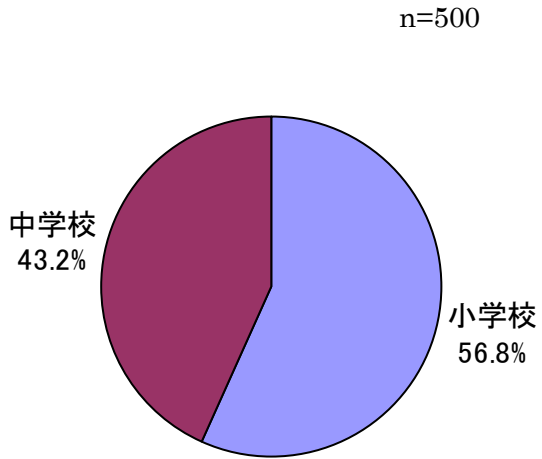
インターネット調査

### 5. 有効回答数：

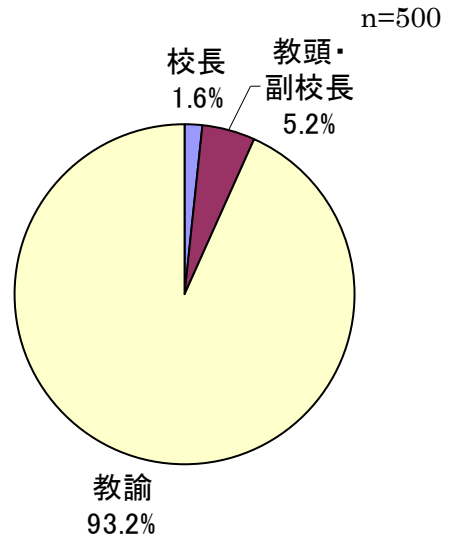
500 件

【基本属性】

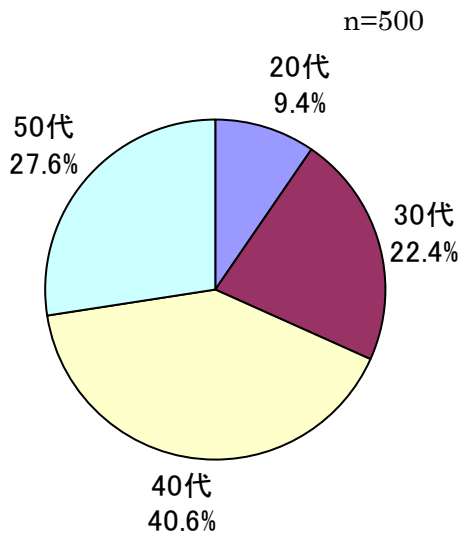
学校種別



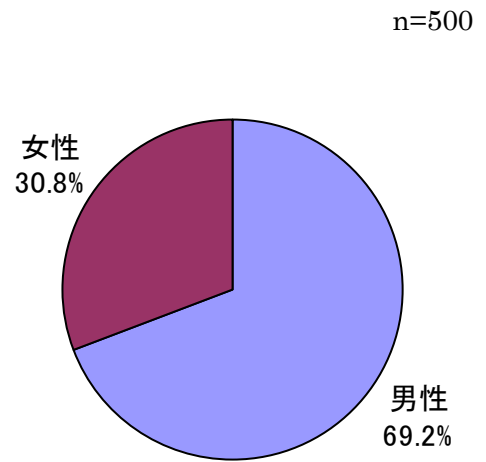
役職



年代

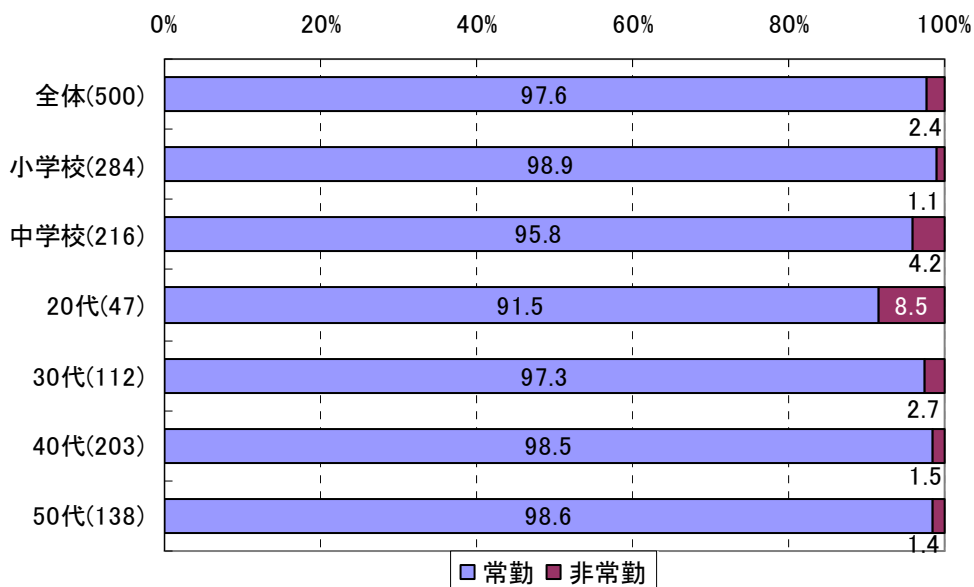


性別



Q1. あなたの勤務形態に当てはまるものを1つ選択してください。

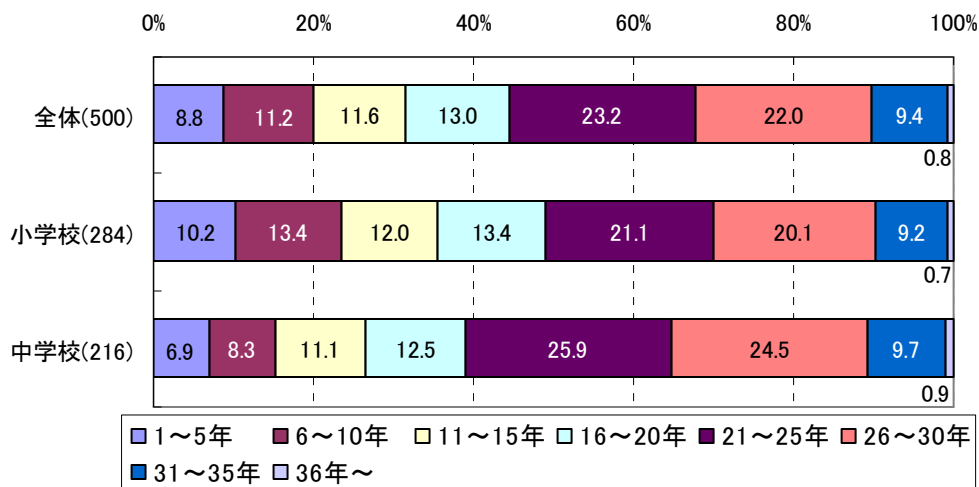
1. 常勤
2. 非常勤



図表 1 勤務形態

- 全体では「常勤」の教員が97.6%に上る。
- 20代では、「非常勤」の教員が8.5%と、他の年代よりも多い。

Q2. あなたは教師として勤務されて何年目になりますか。勤務のトータル年数をお書きください。

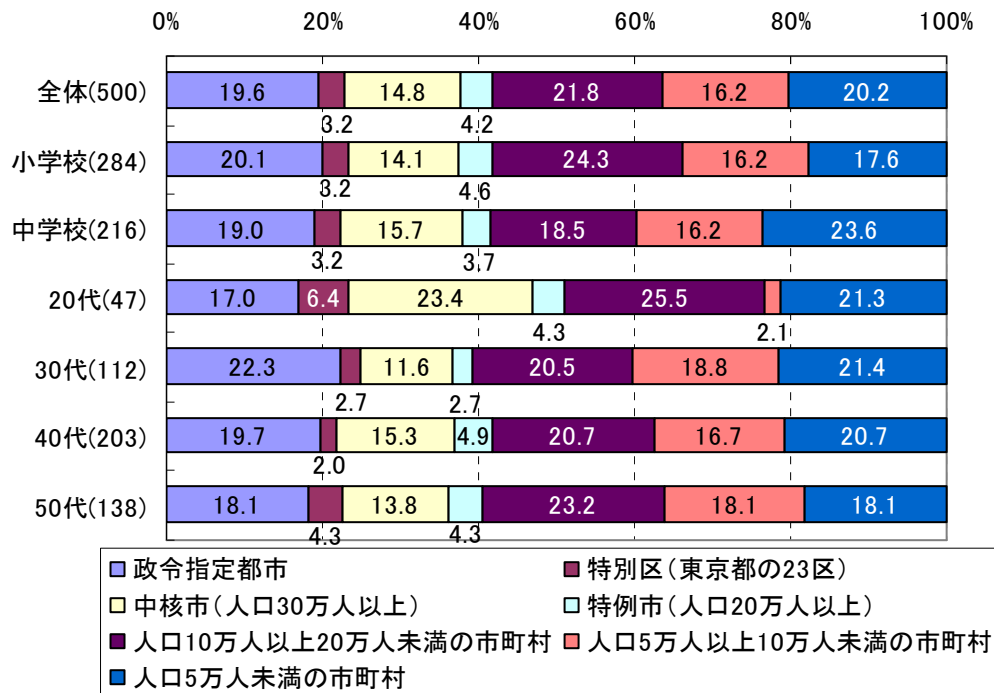


図表 2 勤務年数

- 全体では「21～25年」の教員が23.2%、「26～30年」の教員が22.0%となっている。
- 小学校では勤務年数の10年以下の教員が多く、「1～5年」が10.2%、「6～10年」が13.4%と中学校よりも高くなっている。

Q3. あなたの勤務する学校の所管自治体について、当てはまるものを1つ選択してください。

1. 政令指定都市
2. 特別区(東京都の23区)
3. 中核市(人口30万人以上)
4. 特例市(人口20万人以上)
5. 人口10万人以上20万人未満の市町村
6. 人口5万人以上10万人未満の市町村
7. 人口5万人未満の市町村



図表 3 勤務校の自治体規模

- 全体では、「政令指定都市 (19.6%)」、「人口10万人以上20万人未満の市町村 (21.8%)」、「人口5万人未満の市町村 (20.2%)」がそれぞれ2割程度、一方、「特別区 (3.2%)」、「特例市 (4.2%)」である。
- 20代では、「中核市」が23.4%と多く、「人口5万人以上10万人未満の市町村」が2.1%と少なくなっている。

## 【I. 質の高い教育を実施するために必要な取り組みについて】

Q4. あなたは、「質の高い教育」とはどのようなものだとお考えですか。あなたご自身のお考えをお書きください。

主な回答分類と具体的な記述内容例は次のとおり。

### 【一人ひとりの個性、能力に合った教育】

- ・ 生徒一人ひとりにきめ細かく対応できる教育。
- ・ 生徒一人ひとりに目が行き届くこと。教師一人についての受け持つ生徒の人数が30人以下でありたい。
- ・ 教師が一人ひとりを大切にし、子どもたち同士も互いを思いやる気持ちを持ち、一人ひとりを大切にするようにさせる教育。また、どの子どもにも均等に成長する機会を与え、個に応じた課題で自身の成長に気づき、自信を持たせる教育。

など

### 【学力以外の力もともに伸ばす教育】

- ・ 知識を基に考える力を付け、知恵と教養を養う教育。
- ・ 子供たちに最低限の学力を保証するだけでなく、筋道を立てて考える力、それを様々な方法で表現する力、他者を思いやる心なども身につけること。
- ・ 学力テスト等の点数をある程度高める必要はあるが、根元的には、人としてよりよくなるとうとする気持ちを高めたり、自分の力を存分に発揮できる気持ちを高めてあげられることで、自尊心を高めることが、「質の高い教育」だと思う。

など

### 【時間、予算等のゆとりある環境での教育】

- ・ 一つ一つの学習にじっくり取り組める時間・環境と精選された学習内容等。
- ・ 時間、行事に追われない。児童、教員も気力が充実した状態での授業が行える状態。あるいはモチベーションの高い状態の維持。
- ・ 教員の事務負担を減らし、教材研究の時間を増やすことで、もっと教えることに専念することが質の高い教育である。
- ・ 誰にも公平に惜しみなく資金をつぎ込んだ、ゆとりある環境の中で育てること。
- ・ 1クラス的人数が20人以下で、安全で設備の整った校舎があり、教員の研修が保障されている条件が必要。

### 【地域との連携、協力による教育】

- ・ 学校・家庭・地域の協力の下、人や社会との関わりの中で行われる教育。
- ・ 学校・地域・自治体が協力して子どものために環境を整えている状態
- ・ 子どもの能力に合わせた、またはその能力を引き出しのばせる教育であり、そこには家庭と地域学校との関係が円滑に結ばれている。保護者は学校の方針に従いそれを高める上でのサポー



トを行う。学校・地域・家庭の役割がきちんと理解され目的の為に三者が協力し合う。

など

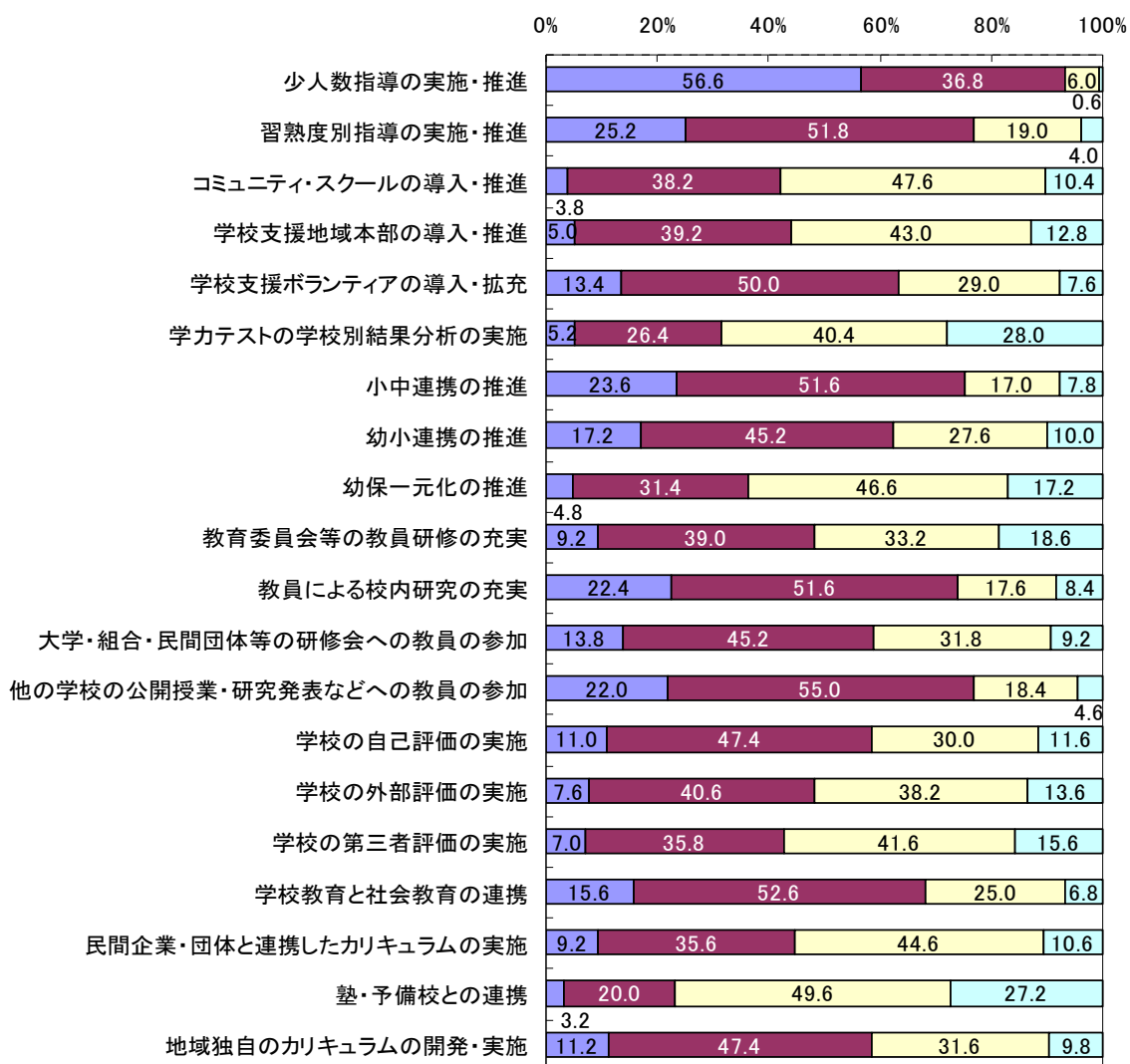
**【高い資質、志を持った教員による教育】**

- ・ 指導力のある教員が多数いて、授業をはじめとして質の高い教育活動が行われること。
- ・ 教員が高度の専門知識を持ちつつ、基礎基本的な内容を平易に子どもに伝える教育。
- ・ 質の高い教師（子どもの気持ちが見える教師）と、質の高い授業（子どもが楽しく学習できて、内容がしっかり理解できる授業）による教育。

など

Q5. 今後、質の高い教育を実施するためには次のような取り組みがどの程度重要だとお考えですか。あなたご自身の考え方にもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| (1) 少人数指導の実施・推進              | (2) 習熟度別指導の実施・推進            |
| (3) コミュニティ・スクールの導入・推進        | (4) 学校支援地域本部の導入・推進          |
| (5) 学校支援ボランティアの導入・拡充         | (6) 学力テストの学校別結果分析の実施        |
| (7) 小中連携の推進                  | (8) 幼小連携の推進                 |
| (9) 幼保一元化の推進                 | (10) 教育委員会等の教員研修の充実         |
| (11) 教員による校内研究の充実            | (12) 大学・組合・民間団体等の研修会への教員の参加 |
| (13) 他の学校の公開授業・研究発表などへの教員の参加 | (14) 学校の自己評価の実施             |
| (15) 学校の外部評価の実施              | (16) 学校の第三者評価の実施            |
| (17) 学校教育と社会教育の連携            | (18) 民間企業・団体と連携したカリキュラムの実施  |
| (19) 塾・予備校との連携               | (20) 地域独自のカリキュラムの開発・実施      |

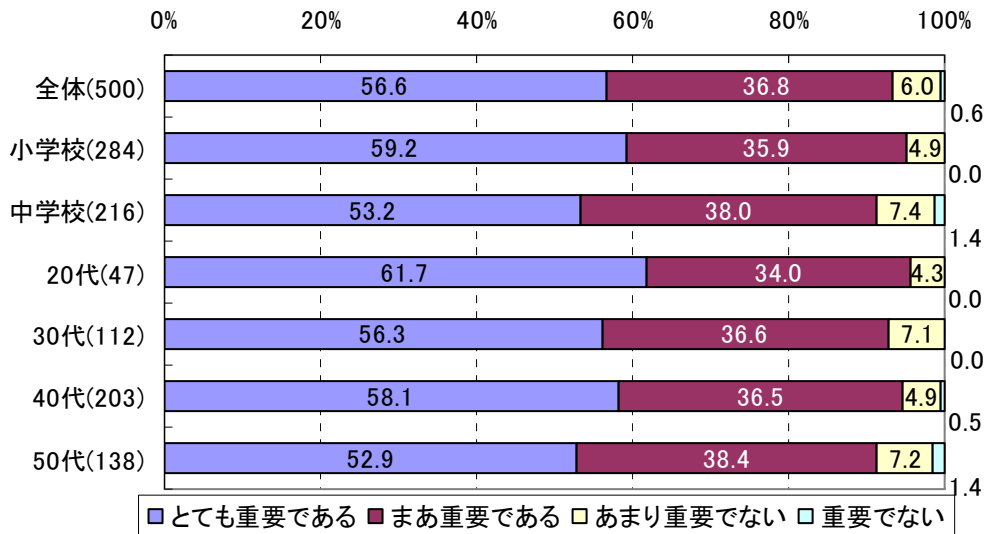


□とても重要である ■まあ重要である □あまり重要でない □重要でない ■無回答

図表 4 質の高い教育を実施するための取り組みに対する重要度

- 「とても重要」の割合で比較すると「(1) 少人数指導の実施・推進 (56.6%)」が突出して重要度が高い。
- 一方で、「あまり重要でない」、「重要でない」の合計値で比較すると「(19) 塾・予備校との連携」が76.8%となっており、20項目中、最も重要度が低くなっている。

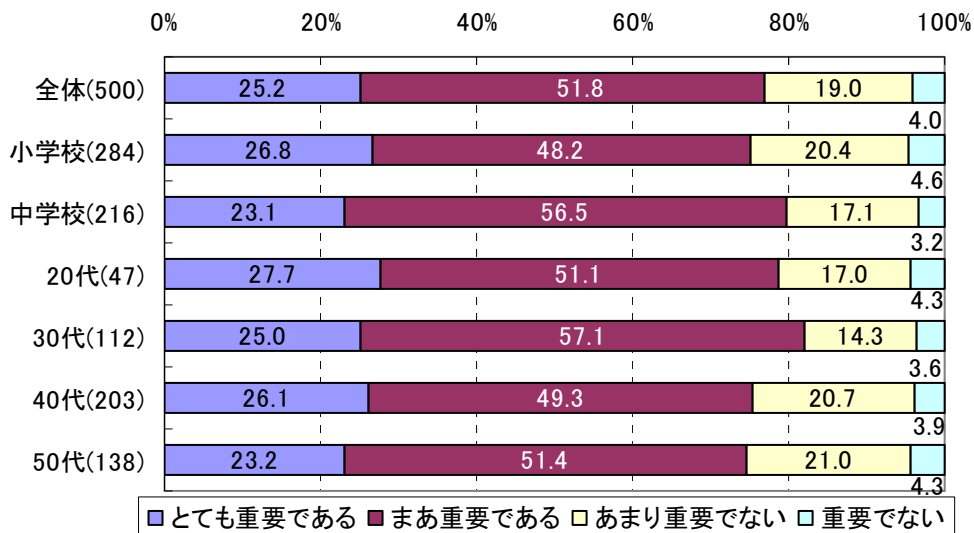
(1) 少人数指導の実施・推進



図表 5 団体規模別にみた「少人数指導の実施・推進に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、属性によらず5割から6割程度となっている。

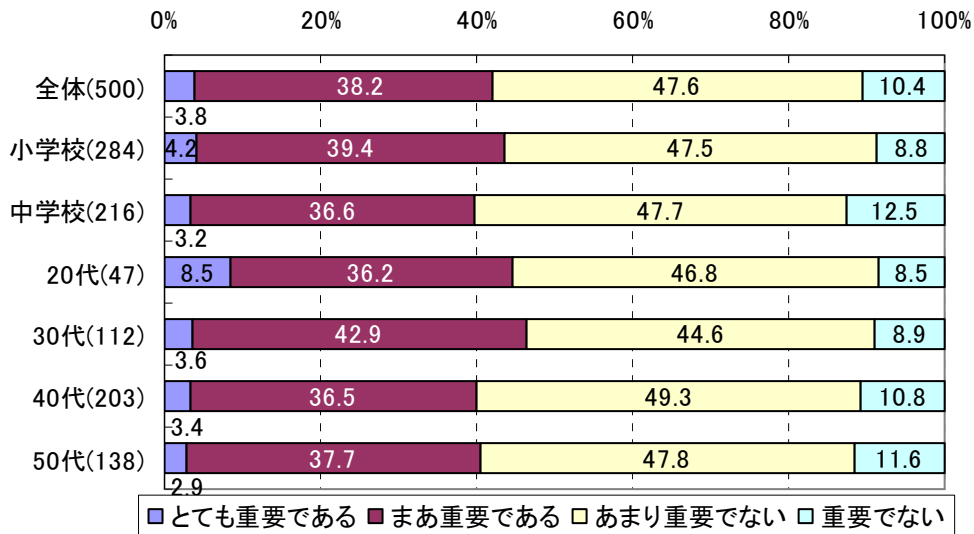
(2) 習熟度別指導の実施・推進



図表 6 団体規模別にみた「習熟度別指導の実施・推進に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、属性によらず2割から3割程度となっている。

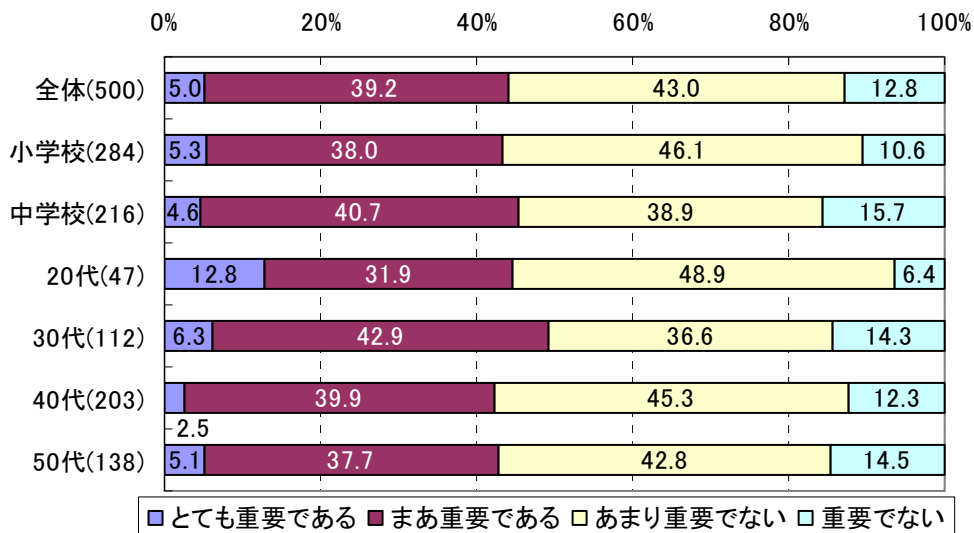
(3) コミュニティ・スクールの導入・推進



図表 7 団体規模別にみた「コミュニティ・スクールの導入・推進に対する重要度」

- 「とても重要」、「まあ重要」の合計値で比較すると、属性によらず4割前後となっている。

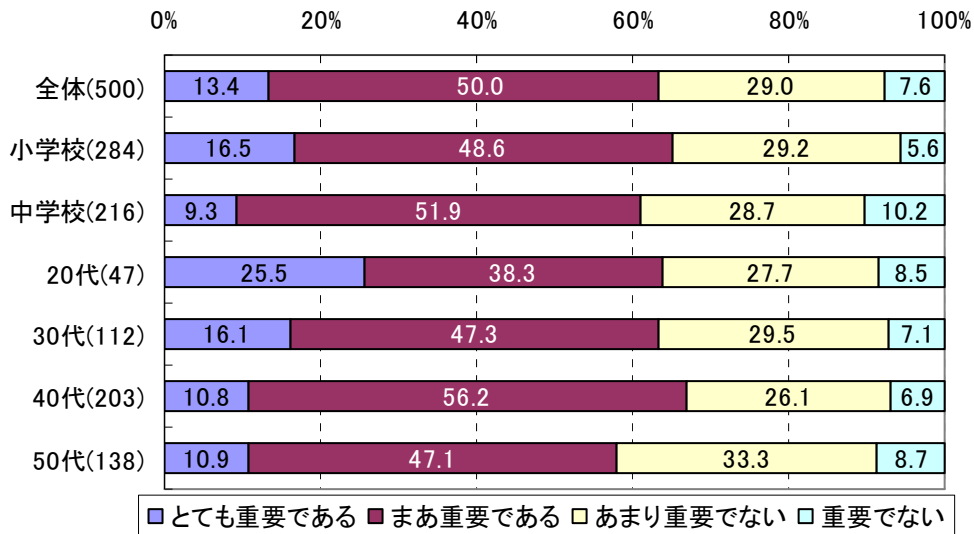
(4) 学校支援地域本部の導入・推進



図表 8 団体規模別にみた「学校支援地域本部の導入・推進に対する重要度」

- 「とても重要」、「まあ重要」の合計値で比較すると、属性によらず4割から5割程度となっている。
- 「とても重要」で比較すると、20代で12.8%と他の年代よりも高い。

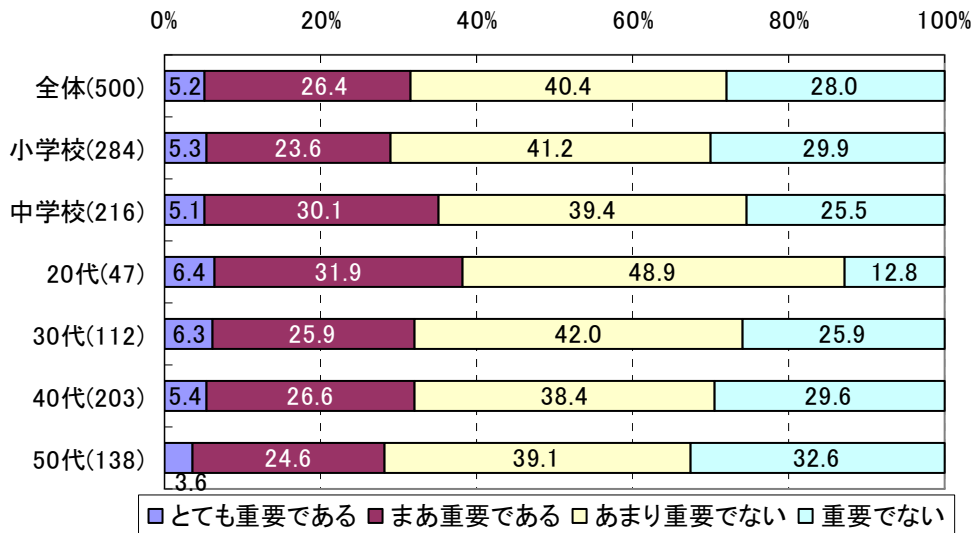
(5) 学校支援ボランティアの導入・拡充



図表 9 団体規模別にみた「学校支援ボランティアの導入・拡充に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、小学校で 16.5%、中学校で 9.3%と小学校の方が高くなっている。また、年代別は 20代で 25.5%、30代で 16.1%と、40代、50代よりも高い。

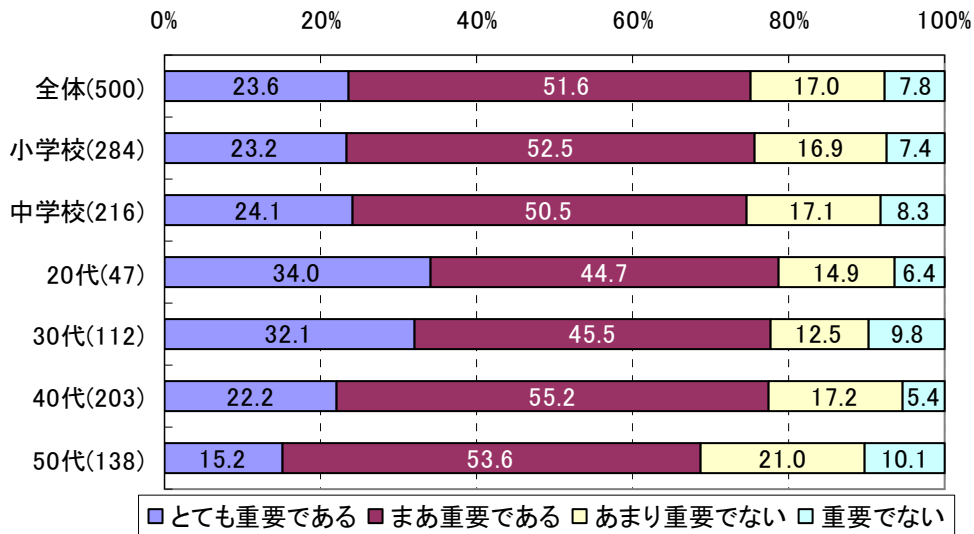
(6) 学力テストの学校別結果分析の実施



図表 10 団体規模別にみた「学力テストの学校別結果分析の実施に対する重要度」

- 「とても重要」、「まあ重要」の合計値で比較すると、小学校で 28.9%、中学校で 35.2%と中学校の方が高くなっている。また、年代別にみると年齢が高いほど「重要でない」という意見が多い傾向にある。

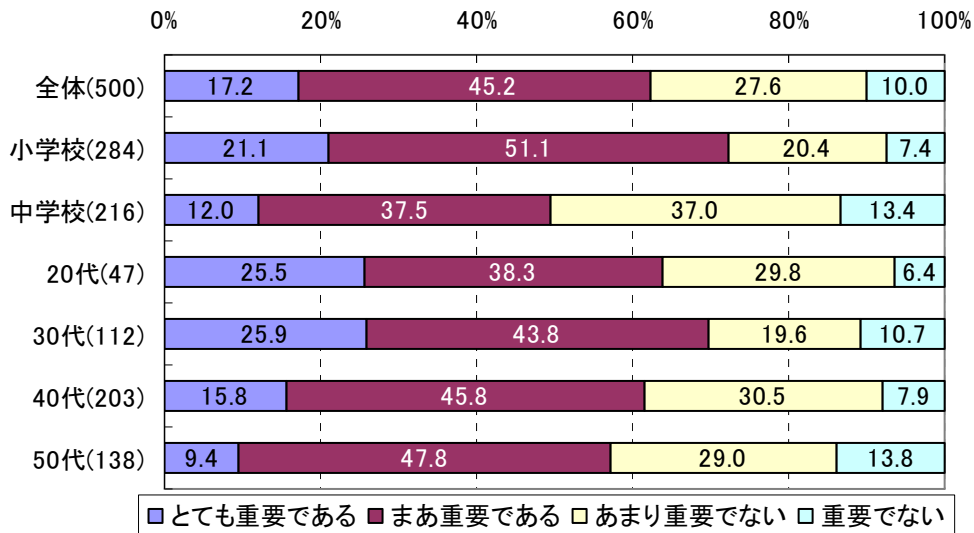
(7) 小中連携の推進



図表 11 団体規模別にみた「小中連携の推進に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で34.0%と高いが50代では15.2%と低く、年代が上がるにつれ低くなっている。

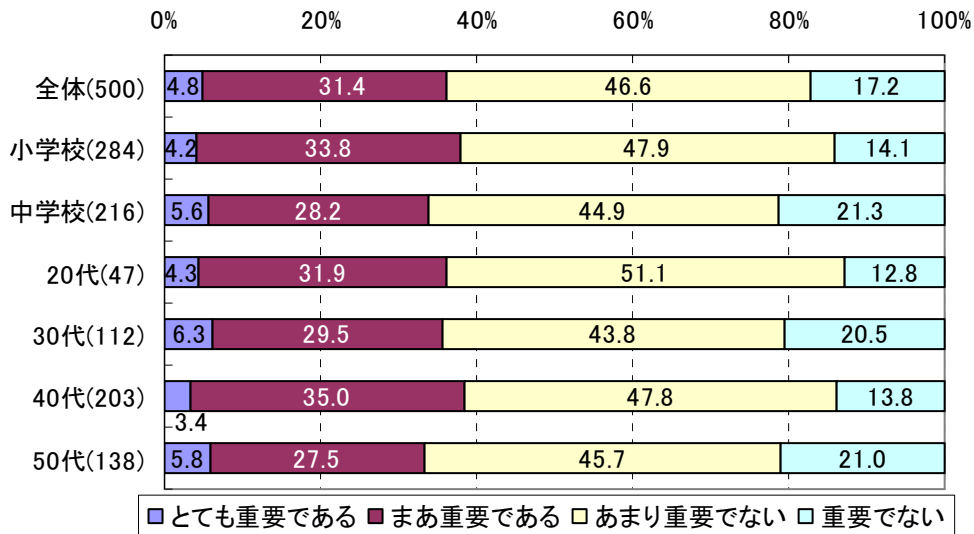
(8) 幼小連携の推進



図表 12 団体規模別にみた「幼小連携の推進に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、小学校で21.1%、中学校で12.0%と小学校で高くなっている。また、年代で見ると、20代、30代で約25%と高く、年代が上がるにつれて低くなっている。
- 「とても重要」、「まあ重要」の合計値で比較すると、小学校では72.2%と高い一方、中学校では49.5%と過半数に満たない。

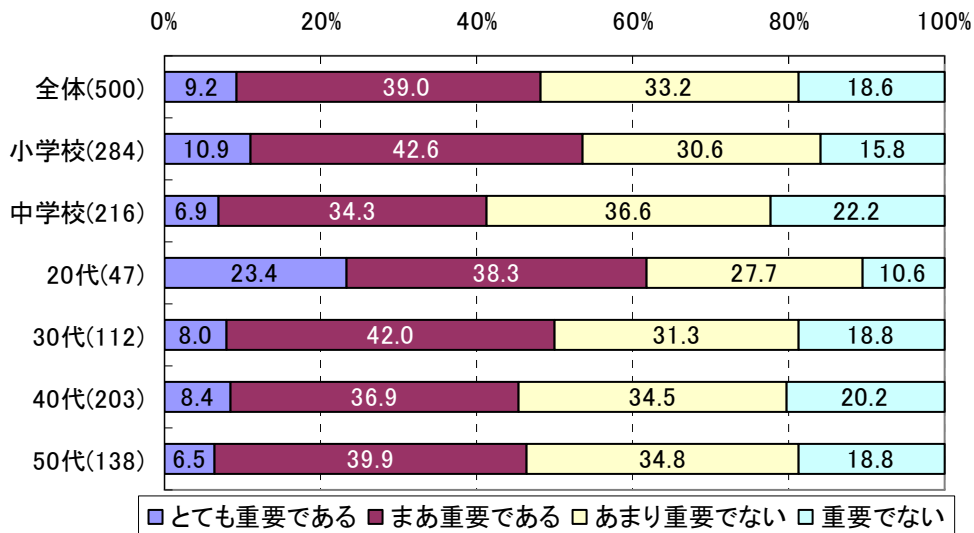
(9) 幼保一元化の推進



図表 13 団体規模別にみた「幼保一元化の推進に対する重要度」

- 「とても重要」、「まあ重要」の合計値で比較すると、属性によらず3割から4割程度である。

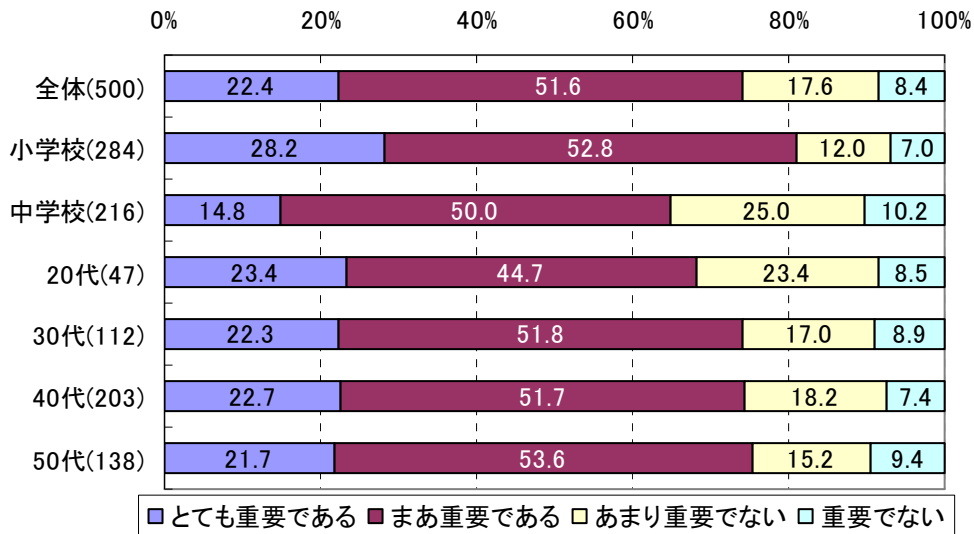
(10) 教育委員会等の教員研修の充実



図表 14 団体規模別にみた「教育委員会等の教員研修の充実に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で23.4%と高くなっている。

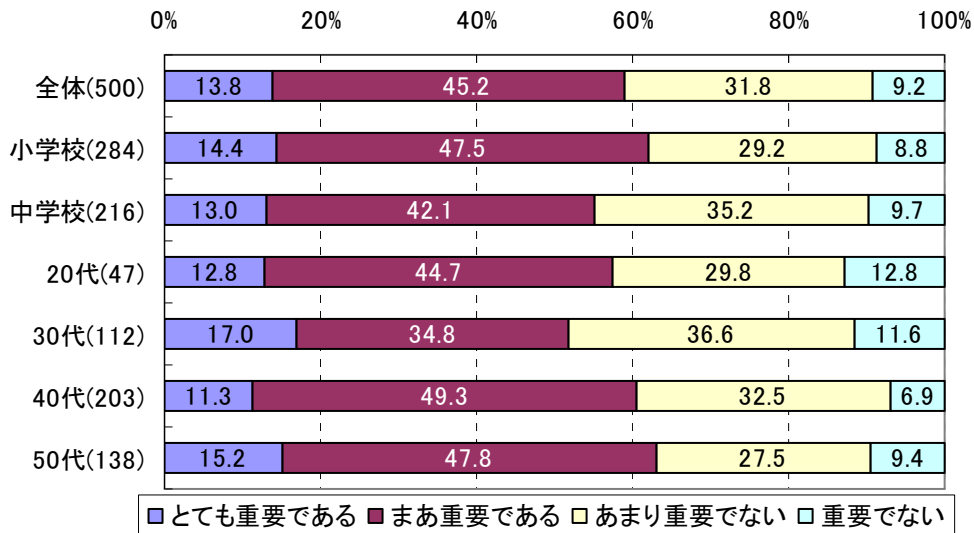
(1 1) 教員による校内研究の充実



図表 15 団体規模別にみた「教員による校内研究の充実に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、小学校では28.2%と高く、一方中学校では14.8%と低くなっている。また、年代による差はほとんど見られない。

(1 2) 大学・組合・民間団体等の研修会への教員の参加

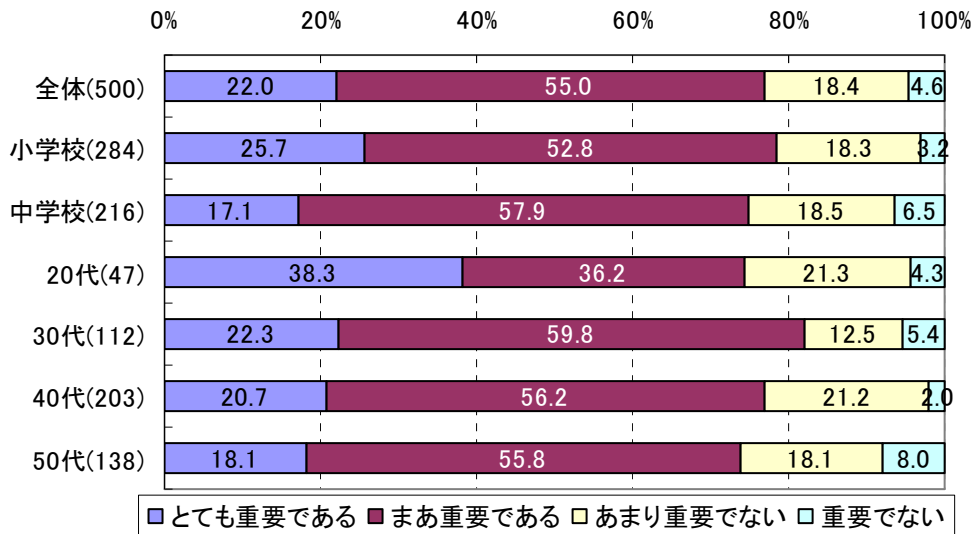


図表 16 団体規模別にみた「大学・組合・民間団体等の研修会への教員の参に対する重要度」

- 「とても重要」、「まあ重要」の合計で比較すると、属性によらず6割程度となっている。



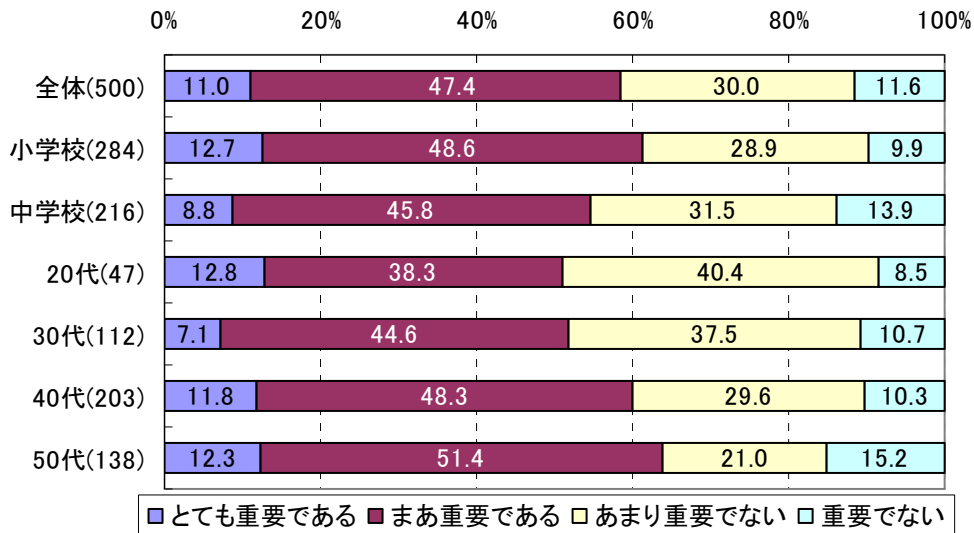
(13) 他の学校の公開授業・研究発表などへの教員の参加



図表 17 団体規模別に見た「他の学校の公開授業・研究発表などへの教員の参加に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、小学校では25.7%と高く、一方、中学校では17.1%と低くなっている。また、20代で38.3%と高くなっている。

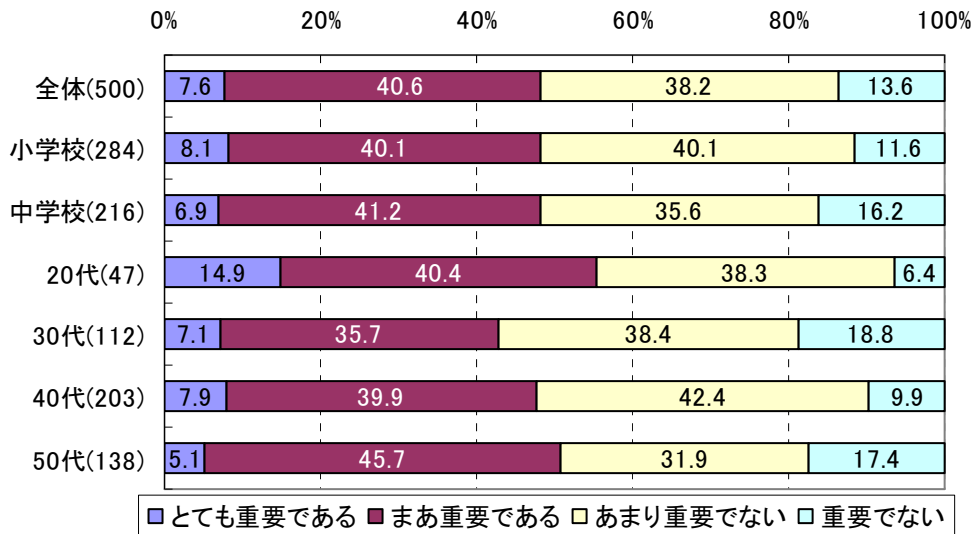
(14) 学校の自己評価の実施



図表 18 団体規模別に見た「学校の自己評価の実施に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、30代で7.1%と他の年代よりも低くなっている。

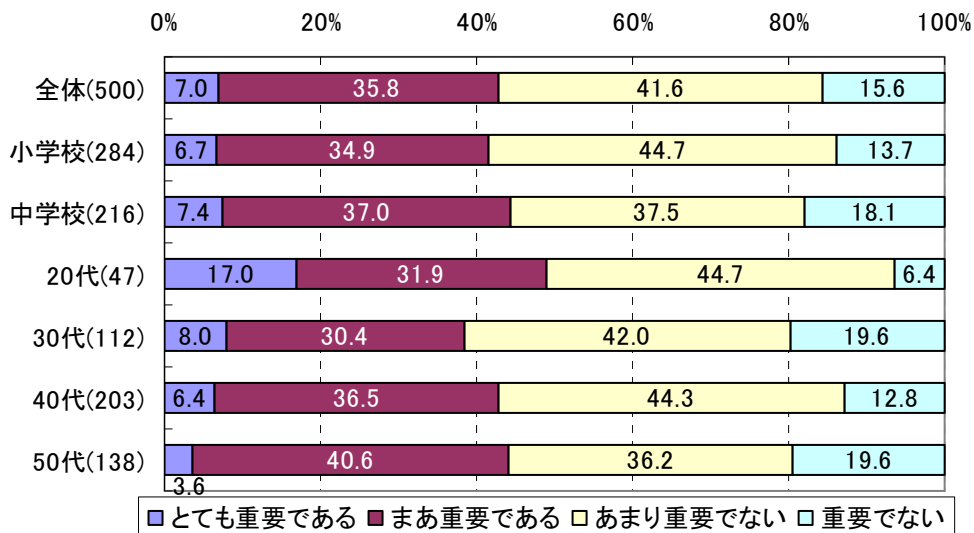
(15) 学校の外部評価の実施



図表 19 団体規模別にみた「学校の外部評価の実施に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で14.9%と高くなっている。

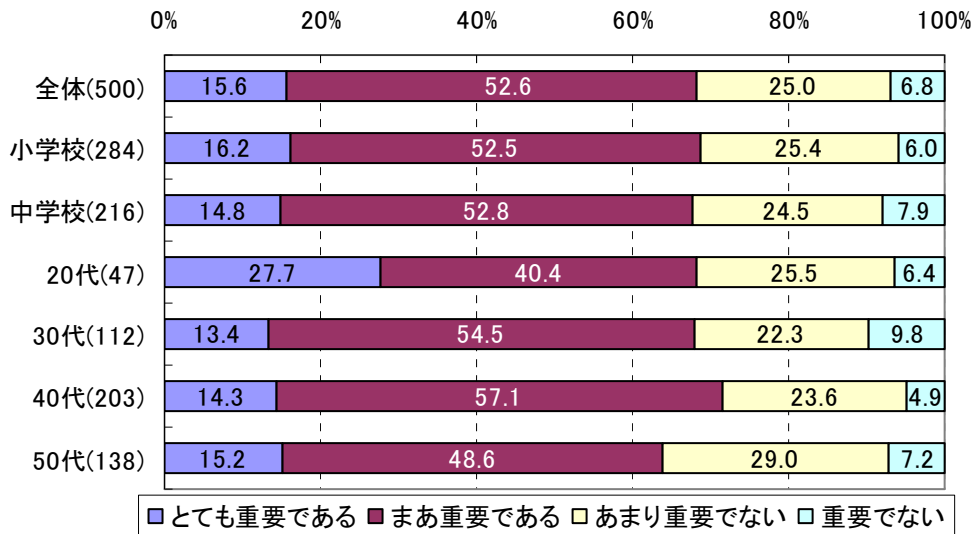
(16) 学校の第三者評価の実施



図表 20 団体規模別にみた「学校の第三者評価の実施に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で17.0%と高く、50代では3.6%と低くなっている。

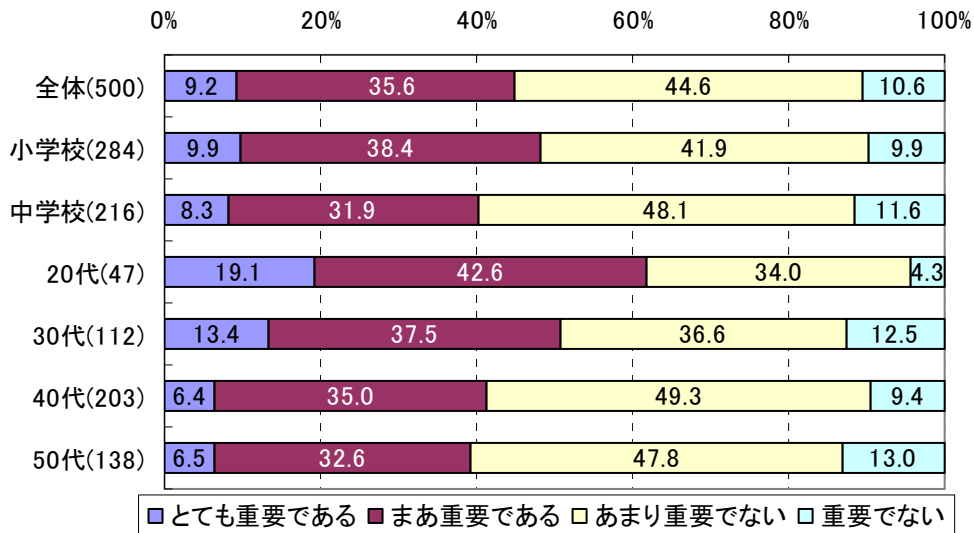
(17) 学校教育と社会教育の連携



図表 21 団体規模別にみた「学校教育と社会教育の連携に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で27.7%と高くなっている。その他の属性による差はほとんど見られない。

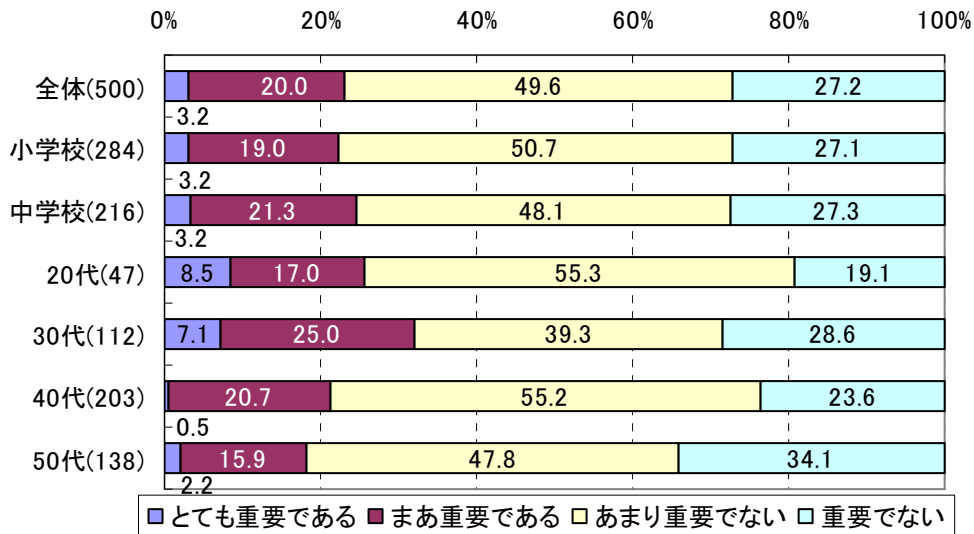
(18) 民間企業・団体と連携したカリキュラムの実施



図表 22 団体規模別にみた「民間企業・団体と連携したカリキュラムの実施に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で19.1%、30代で13.4%と若い年代で高くなっている。
- 「とても重要」、「まあ重要」の合計で比較すると、小学校で48.3%、中学校で40.2%と、小学校の方が高くなっている。

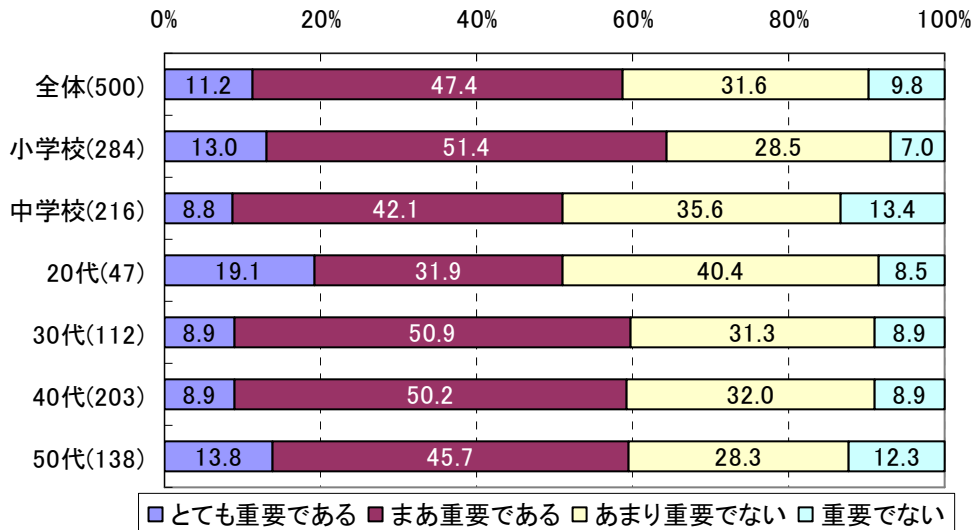
(19) 塾・予備校との連携



図表 23 団体規模別に見た「塾・予備校との連携に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると20代で8.5%、30代で7.1%と他の年代よりも高くなっている。
- 「とても重要」、「まあ重要」の合計で比較すると30代がもっとも高く、32.1%に上る。

(20) 地域独自のカリキュラムの開発・実施



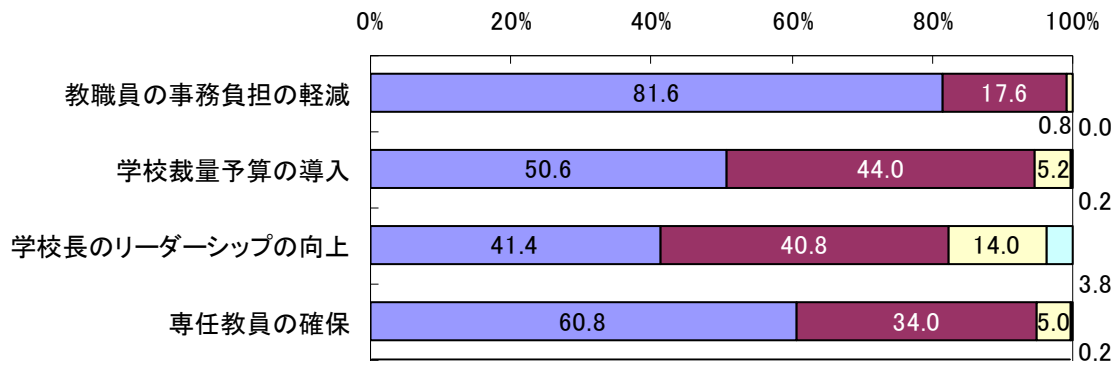
図表 24 団体規模別に見た「地域独自のカリキュラムの開発・実施に対する重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20代で19.1%と高くなっている。

## 【Ⅱ. 学校運営に関する環境整備について】

Q6. 今後、円滑な学校運営を実現するための環境整備として次のような取り組みがどの程度重要だとお考えですか。あなたご自身の考え方にもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| (1) 教職員の事務負担の軽減    | (2) 学校裁量予算の導入 |
| (3) 学校長のリーダーシップの向上 | (4) 専任教員の確保   |

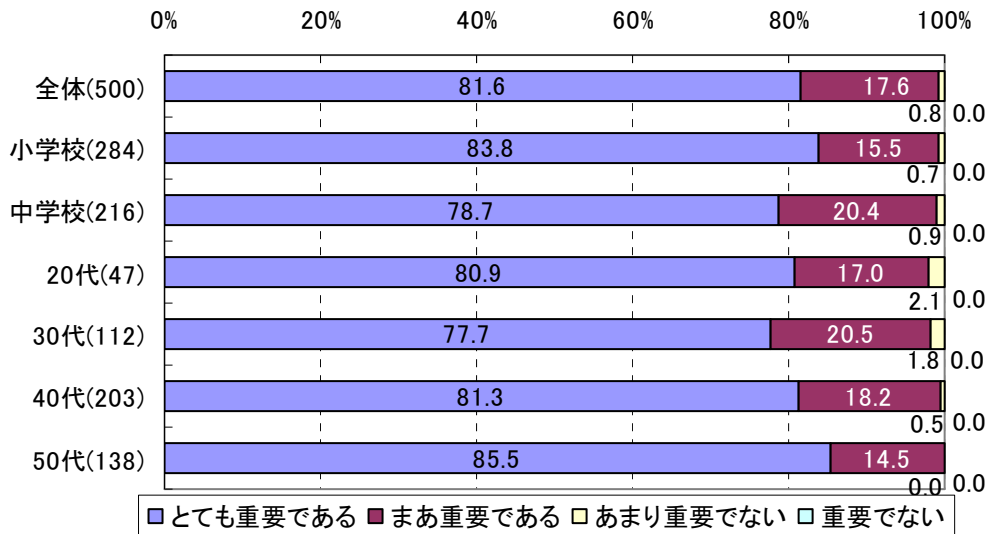


■ とても重要である
 ■ まあ重要である
 □ あまり重要でない
 □ 重要でない

図表 25 円滑な学校運営を実現するための環境整備に関する取り組みの重要度

- 「とても重要」で比較すると、(1) 教職員の事務負担の軽減が 81.6%ともっとも高い。逆に、(3) 学校長のリーダーシップの向上は 41.4%と重要度が低くなっている。

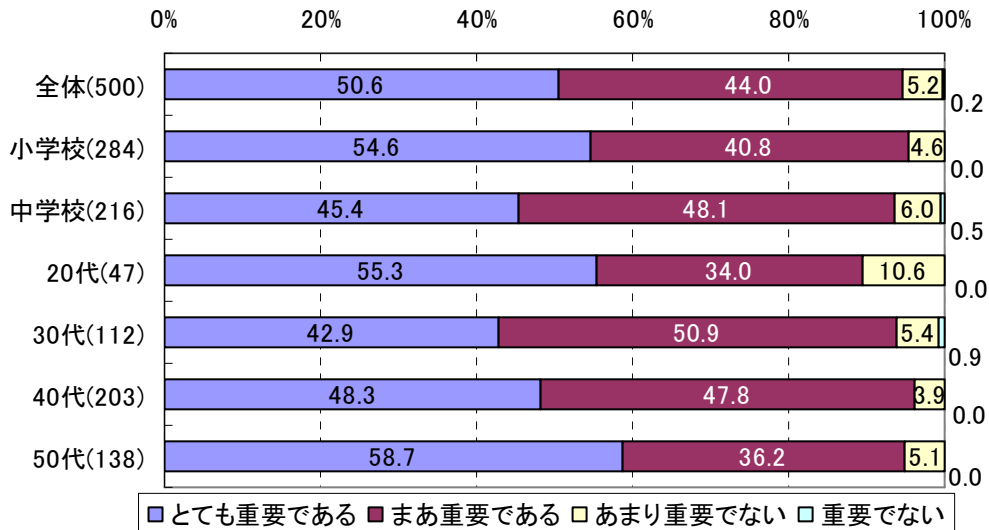
(1) 教職員の事務負担の軽減



図表 26 団体規模別にみた「教職員の事務負担の軽減の重要度」

- 「とても重要」で比較すると、属性によらず8割程度がとても重要と回答している。
- 「重要でない」はどの属性でも選択者がいなかった。

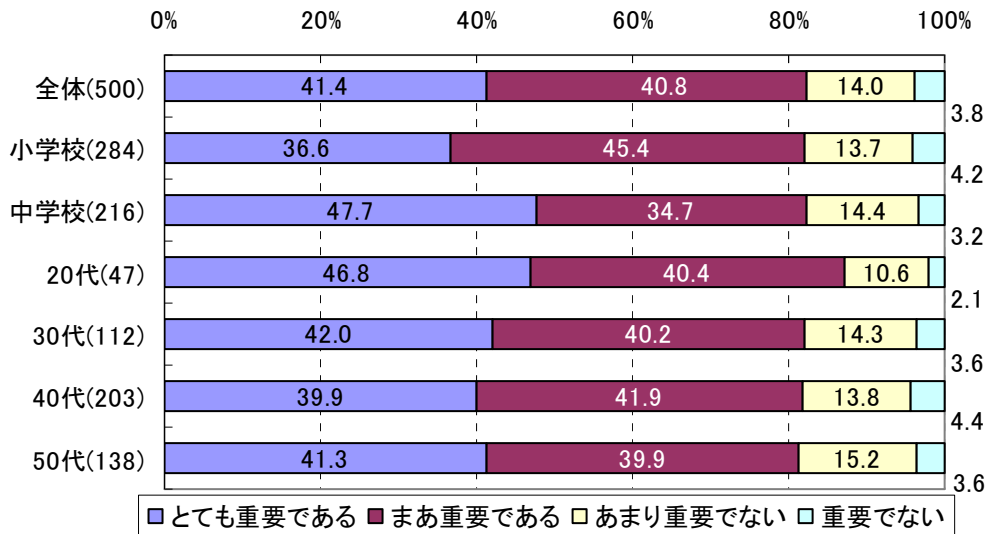
(2) 学校裁量予算の導入



図表 27 団体規模別にみた「学校裁量予算の導入の重要度」

- 「とても重要」で比較すると、小学校で54.6%、中学校で45.4%と小学校の方が高くなっている。また、年代別にみると50代で58.7%と高く、ついで20代が55.3%となっている。

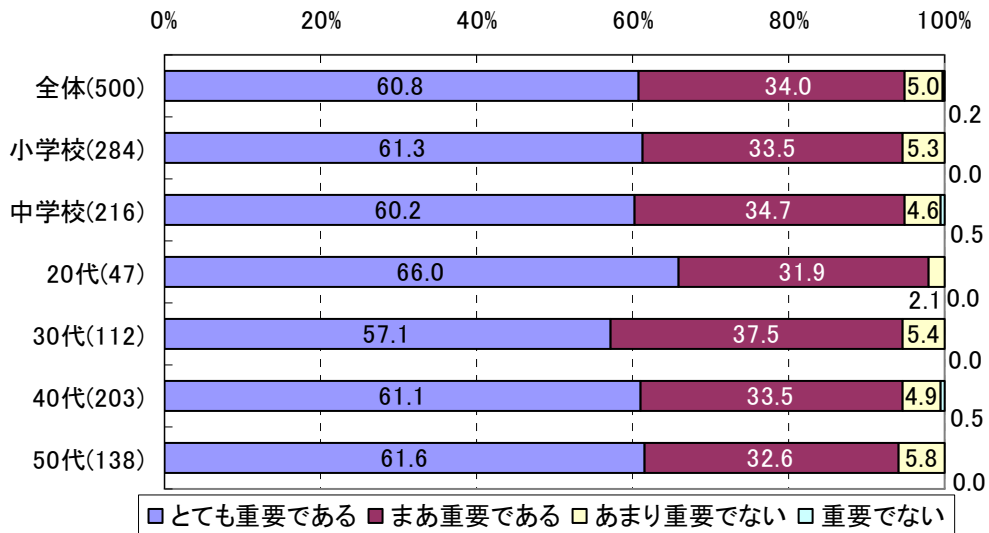
(3) 学校長のリーダーシップの向上



図表 28 団体規模別にみた「学校長のリーダーシップの向上の重要度」

- 「とても重要」で比較すると、小学校で 36.6%、中学校で 47.7%と中学校の方が高くなっている。また、年代別には 20 代で 46.8%と少々高いが、他の年代では 4 割前後と差はない。

(4) 専任教員の確保



図表 29 団体規模別にみた「専任教員の確保の重要度」

- 「とても重要」で比較すると、20 代で 66.0%と他の年代よりも高くなっている。

### 【Ⅲ. 教育委員会の権限と組織改革について】

Q7. あなたの勤務する市区町村の教育委員会事務局において、現場の意向や実態を教育委員会がよりよく把握するために、特別に行っている取り組みをお書きください。

主な回答分類と具体的な記述内容例は次のとおり。

#### 【(教育委員、指導課、指導主事等による) 学校訪問、視察】

- ・ 学校訪問をして管理職等からの意見聴取
- ・ 隔年で、教育委員会の教育委員の学校訪問が実施されている。

など

#### 【アンケート調査等の実施】

- ・ 市で統一した学校評価や各種アンケート
- ・ アンケートや要望調査

など

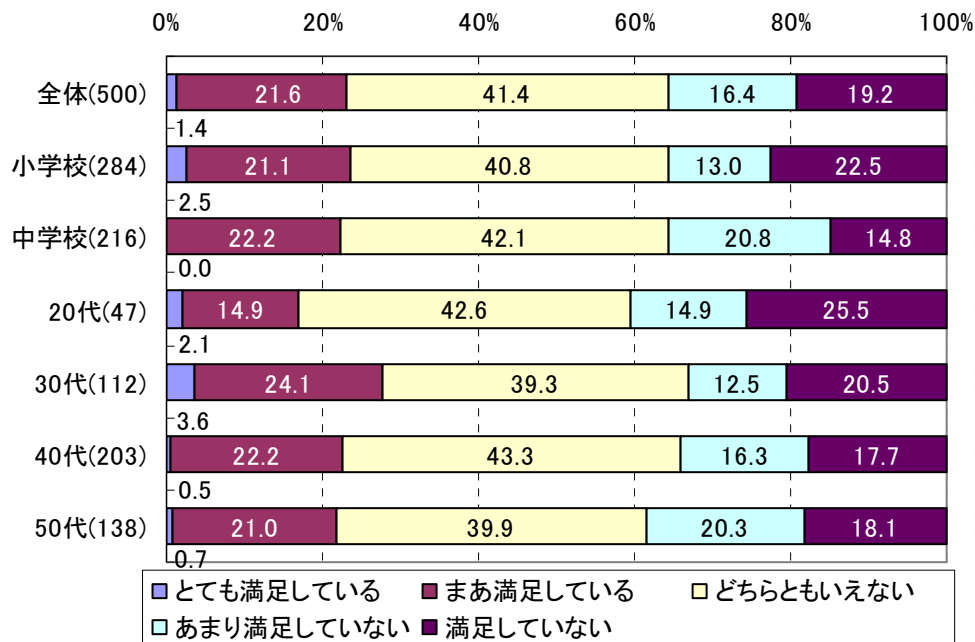
#### 【その他】

- ・ 「生きる力委員会」が開かれている。幼小中の教育委員、校長教頭、校内研修主任から地域代表を選出し、地域連携の課題や推進について会議を持っている。
- ・ インターネットによる教育ネットワークの整備。
- ・ 課長レベルの日常的な学校視察と管理職とのヒアリング。
- ・ スクールガードや、評議員など、外部の方を取り入れている。
- ・ 各学校の月中行事を集約して各校に配布するようになり、便利になった。

など



Q8. あなたは、あなたの勤務する市区町村の教育委員会に満足していますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。  
また、「4. あまり満足していない」「5. 満足していない」と回答した方にお聞きします。そのように回答した理由は何ですか。あなたご自身の考え方をお書きください。



図表 30 団体規模別にみた「望ましい教育委員の選任方法」

- 全体で見ると、「とても満足している (1.4%)」と「満足している (21.6%)」の合計が 23.0%、「あまり満足していない (16.4%)」と「満足していない (19.2%)」の合計が 35.6%であり、満足していないと回答した割合の方が高くなっている。
- 「とても満足している」と「まあ満足している」の合計値で比較すると、20代で 17.0%と低い一方、30代では 27.7%と他の年代よりも高くなっている。

■満足していない理由について、主な回答分類と具体的な記述内容例は次のとおり。

**【現場の状況を理解していない】**

- 現場の状況がわかっておらず、現場に必要な対応がなく、不要な要求ばかりされる。
- 国からの上意下達に徹していて、具体的にどうしたいという特色が全くなく、現場の意見が全く反映されない。

など

**【教委から課される書類提出等の作業負担が多い】**

- 形式的な研修と煩雑な事務処理の執行で、教員の資質を高めるゆとりが与えられていない。
- 必要もない調査レポート等に時間がかかり、子どもたちの授業等の準備にかかる時間などがかなり制限される。

など

Q9. 教育委員会に関して、ご意見をご記入ください。

主な回答分類と具体的な記述内容例は次のとおり。

**【現場の実態に即した取り組みへの要望】**

- ・ もっと、学校現場の実態を把握し、教師がどれだけ大変な思いで仕事をしているかを知ってほしい。
- ・ 教職員の事務負担を減らして、教材研究などにもっと時間を割けるように考えてください。
- ・ 現場からの意見をもっと吸い上げ、予算など柔軟に対応してもらいたい。
- ・ 国の方針もあるが、それをふまえた上で、地域の実態に応じた対応が柔軟にできる体制がほしい。

など

**【教育委員会自体のあり方について】**

- ・ 教育委員会は学校を指導する立場というより、お互いに協力、連携していくという立場で仕事を行ってもらうとより仕事がうまくいくと思う。
- ・ 教育委員会を審査する機関が必要だと思う。
- ・ この組織自体なくなっても問題ない。予算の管理と、人員の管理ができるのであれば、その部分だけはあってもいい。

など

**【教育環境の整備に関する取り組みへの要望】**

- ・ 教員数の拡充と予算の確保にもっと力を発揮して欲しい
- ・ 形式的な研修や評価よりも教員に時間的余裕を持たせるよう、教員数を増やしてほしい。以前に比べ最近では授業準備や教員間での情報交換の時間もないほどであり、休憩時間もなく、残業ばかりになってしまっていて教員は疲れ果てて、授業研究もできない。
- ・ 現場での一番の要望は、先生の数を増やすこと。子ども一人ひとりにきめの細かい対応をすることや、親への対応を考えると早く 30 人学級にして欲しい。現場の先生たちは疲れている。このままでは先生になりたい人がいなくなってしまうのではないかと。

など

**【外部との調整に関する取り組みへの要望】**

- ・ 学校と地域や保護者の間に立って、調整する機能を持って欲しい
- ・ さまざまな業務を教師に任せているが、専門ではない分野では限界がある。予算の問題もあると思うが、できることとできないことの区別を委員会として責任を持って保護者や地域に発信してほしい。
- ・ モンスターペアレントへの対策として、教育委員会で専任弁護士を雇ってほしい。

など

以上